

六期生

衆しかったあの頃

山中 将司

卒業以来最早々年余りの歳月を経た今日
過ぎし日の事を思い出すこと大に感ずる
を感ずると共に一糸の耕しを覚ゆる様
である。というよりは高津時代のクラブ活動
が良きにつけ悪しきにつけ自家に残り、今
考之れば何でもなかつた。些細な当時の
出来事の一ツ一ツが鮮やかに我々の脳裏に
刻み込まれていて、いさゝかえ、クラブに
の時代は今日の隆盛に比し、かえ、クラブに
とつて全く苦しい時代だつたといふ事。
常に部員の不足に悩まされ先輩諸氏の熱心
なる指導で練習はやり乍ら所謂体系的な熱心
のがなく華々しい成果を挙げざる事が出来な
かつた次第です。併しとにかく今から当時
を振り返ると総て衆しかつたといふ一言に
尽さる様です。この言葉で表現出来ない様
な衆しさという事を現在の現役のクラブ員
諸君にも感じて欲しいと思つて置きます。私共
同年年のクラブ員の高津時代に演じた種々
のエピソードを挙げ様と思つて置きます。又
に、これ表わす事出来なない様に思ひます。
この様なクラブ誌を作る事が出来るのはグ
ラブが順調に発展して、いさゝか証明するに

他がらぬ事だと思ひます。最後に立派な先
輩を持ち又立派な伝統を受け継ぎ、輝やか
い成果を挙げ、てくれる後輩諸氏に対して御
礼を申し上げる次第です。
完

七期生

一九五二年九月〜一九五五年三月

私のハンドボール生活

松田 一彦

始めに期間として一九五二年九月と書い
た理由は、私が九月よりハンドボール部に
入つたからだ。同期生の内、既に私よりも
前に入つていたのは、後に関学大に進み現
在丸善石油に勤務している榎本君、同じ大
学に進み現在は津田鋼材にいる宮崎君、途
中三年生で止めた大和証券の広田君であつ
た。私が九月に入つて約一週間の練習であ
り、初めて対外試合があつた。対生野高校であ
る。その頃私は初めての試合、故要領を得ず
うろうろとフアードの一人として頭数を揃
えていた様な印象としてのみ記憶している。
当時のフアードは、二身山中和泉北中、一
身榎本私田であつたと思ふ。結局対生野高
校試合の成績は五―二位で敗れた。其の後
一―二試合対外試合をしたと思ふが、記憶
が明確でないのは、一昨年大会での成績である。